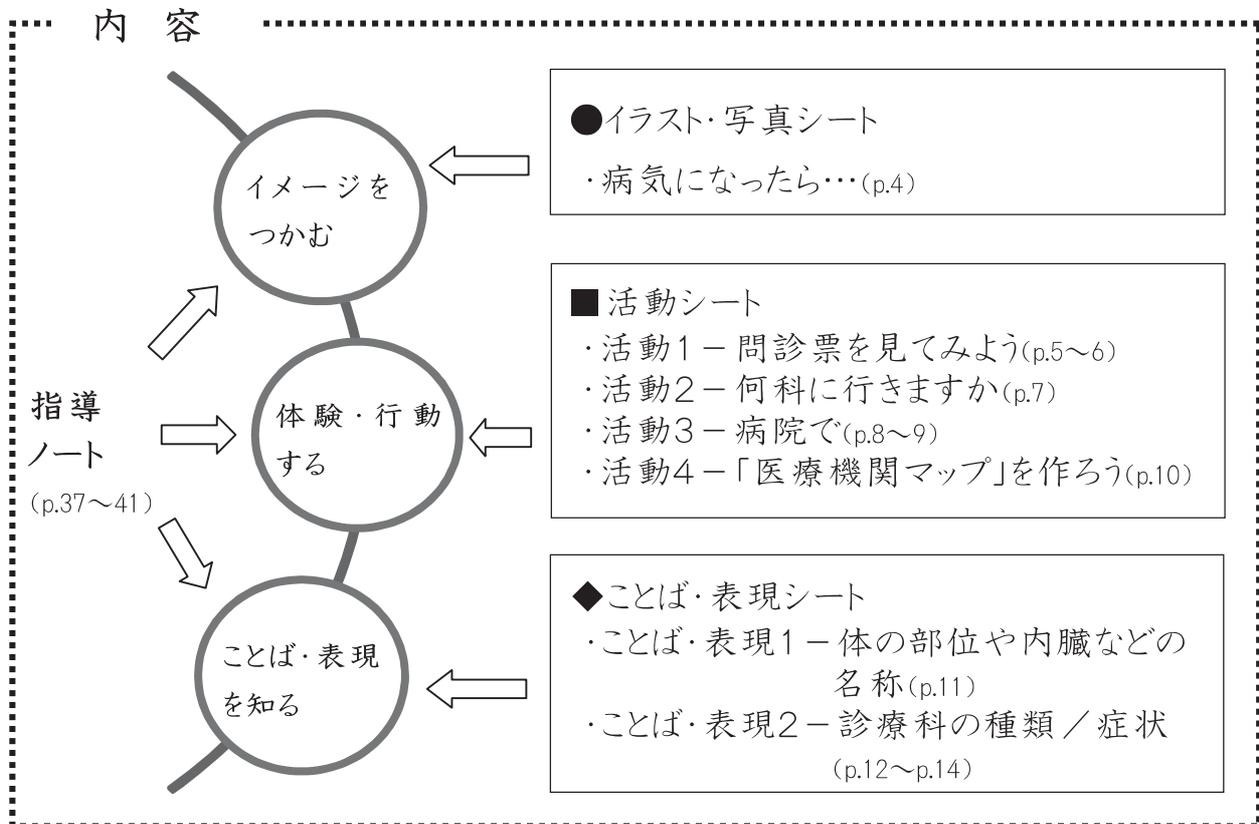


# (01) 医療機関で治療を受ける



## 取り上げる生活上の行為の事例

- (0102010)「初診受付で手続をする」
- (0103010)「医者の診察を受ける」
- (0103120)「病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する」

## 教室活動の目標

- ・病気やけがのとき、医療機関で治療を受けることができる

## 教室活動のねらい

- ・症状を伝えることができる
- ・医者の診察、指示が理解できる
- ・病気への対処法・生活上の注意を尋ねる
- ・病気への対処法・生活上の注意を理解できる
- ・地域での医療機関の活用について話し合うことができる

## 指導ノート

### 取り上げる生活上の行為の事例

- (0102010)「初診受付で手続をする」
- (0103010)「医者診察を受ける」
- (0103120)「病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する」

### 教室活動の目標

- － 病気やけがのとき、医療機関で治療を受けることができる。

### 教室活動のねらい

- － 症状を伝えることができる。(活動1, 活動2, 活動3)
- － 医者診察, 指示が理解できる。(活動3)
- － 病気への対処法・生活上の注意を尋ねる。(活動3)
- － 病気への対処法・生活上の注意を理解できる。(活動3)
- － 地域での医療機関の活用について話し合うことができる。(活動4)

### 活動前に確認しておくこと

- － 学習者の居住地域の主要な病院の情報, 医療機関の種類
- － 外国人診察に評判が高い診療所の情報
- － 医療通訳サービスの情報
- － 多言語医療問診票, 診療科目
- － 受診の流れ, 医療保険制度など

### 準備する素材

- － 学習者の母語で書かれた問診票
- － 症状を表わす絵カード
- － おもちゃの聴診器, 喉を照らすライト, 白衣など診療場面用の小道具
- － 日本の医療に関する多言語情報(学習者の理解できる言語の翻訳)

## 教室活動の展開の説明

### イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・病気になったら…(p.4)

- 「イラスト・写真シート」(p.4)を提示しながら、学習者に病気をした経験や、病院や医院で診察を受けた経験について尋ね、話してもらいます。どんな症状で、どの病院(医院)にかかったか、医者どどのようにコミュニケーションしたかなどを話してもらえるように引き出します。

#### < 問いかけ例 >

- 「ここはどこですか。何をしていますか。」
- 「どんなとき、病院に行きますか。」
- 「〇〇さんは、日本で病院に行ったことがありますか。」
- 「一人で行きましたか。」
- 「日本語でお医者さんと話をしましたか。」

### 体験・行動する

- 活動シート
- ・活動1－問診票を見てみよう(p.5～p.6)

- ・多言語医療問診票の紹介

- ① 事前に多言語医療問診票のホームページから、学習者の母語の問診票(内科、小児科、整形外科、外科、耳鼻科、眼科、皮膚科、産婦人科、脳神経外科、歯科)をダウンロードし、配布できるように準備しておきます。

「多言語医療問診票」(NPO 法人国際交流ハーティ港南台)

<http://www.k-i-a.or.jp/medical/>

及び <http://www.mmjp.or.jp/konan-international-lounge/jmonshin/top.htm>

からダウンロードすることができます。(詳細は『カリキュラム案』p.113 参照)

- ② イラスト・写真シートで話を進めながら、「これを使ったことがありますか」と多言語医療問診票を提示し、学習者に配布します。

- ③ 内科, 小児科, 整形外科, 外科, 耳鼻科, 眼科, 皮膚科, 産婦人科, 脳神経外科, 歯科の問診票をそれぞれ参照しながら, 診療科の名前と意味を確認します。
- ④ 問診票はインターネットでダウンロードできることを伝え, URLを知らせておくといでしょう。

## 体験・行動する

### ■活動シート

#### ・活動2－何科に行きますか(p.7)

- 「何科に行きますか」の活動シートを使って, 症状の表現を確認します。
- ① 学習者に活動シートを配布します。
  - ② 指導者は活動シートの絵を指しながら, 学習者に「どこへ行きますか?」と問いかけて, まずはかかるべき診療科を学習者に特定してもらうよう促します(指導者は活動シートの絵を拡大コピーして1枚ずつカード状にして, 学習者に提示できるようにしておく, より進めやすいでしょう)。
  - ③ 学習者が診療科の問診票の多言語訳を参照しながら, 該当する症状の表現を見つけたら, 発音を確認しながら, 絵と, 症状の表現と, 診療科の名称を線で結んでもらうようにします。
  - ④ 活動シートでのマッチングが終わったあと, カードを使ってカルタ形式で, 症状の名前を言ってカードを取るゲームをしてもよいでしょう。

## 体験・行動する

### ■活動シート

#### ・活動3－病院で(p.8～9)

- ① 活動3の会話のデモンストレーションをします(指導者と学習者, あるいは, 教室に地域からの協力者がいれば会話に参加してもらうとよいでしょう)。
- ② 学習者は2人1組のペアになり, 会話例1・会話例2・会話例3を実演練習します。
- ③ 活動2の症状の表現の絵を拡大コピーして切り離し, 絵カード状にしたものを指導者は準備しておきます。これらのカードから, 学習者に1枚引いてもらいます。

④ カードを引いた学習者は、カードに示された症状に合わせて、会話例1、会話例2、会話例3を適宜アレンジして、実演します。

- ・ おもちゃの聴診器，喉を照らす豆ライトなどを準備して小道具として使用するとよいでしょう。
- ・ 学習者のレベルに応じ，内容は調整してください。日本語がほとんどできない学習者の場合は，多言語医療問診票を使って，最低限のことを伝えることができる方法を優先して示してください。
- ・ 学習者に，自分でどう表現したらよいかわからなかった症状，医師に言われたけれどよく理解できなかったことなどを聞いてもよいでしょう。

## 体験・行動する

### ■ 活動シート

・ 活動4-「医療機関マップ」を作ろう(p.10)

教室に参加している学習者，指導者(および可能であれば協力者も含め)で，地域の病院や医院について情報を出し合い，地域の「医療機関マップ」の作成を試みてみます。

- ① 学習者に，行ったことのある病院・医院の名前を挙げてもらい，そのときの体験を語ってもらいながら，その機関の特徴や，多言語サポート状況等をリストアップしていきます。
- ② まちの地図にそれぞれの医療機関の場所を示し，適宜情報も加えたシートを作成します。この地図を改訂して充実させていくことを，教室全体のプロジェクトとしてもよいでしょう。日本人の協力者が外国人に対する医療サービスの状況を知り，状況の改善の方法について共に考え行動していくきっかけとしていくことも考えられます。

## ことば・表現を知る

### ◆ ことば・表現シート

- ・ ことば・表現1-体の部位や内臓などの名称(p.11)
- ・ ことば・表現2-診療科の種類/症状(p.12)

・ 体の部位や内臓の名称は診察時に，症状を訴える時に必要なことばです。絵を

見せて、学習者が必要なことばを与えるといいでしょう。ことばに慣れたら、次に、p.12の症状の表現とともに学習するといいでしょう。

- 多言語医療問診票は診療科目ごとにあります。診療科目の名前と意味を確認させてください。症状によって、どの診療科を選ぶか考えさせて活動2を行います。
- 問診票を見せて、学習者が分からないことばを聞いてきたら、意味とともに確認するとよいでしょう。

【参考情報】『日本語学習・生活ハンドブック』（文化庁）

### 医療機関

〔医院・診療所・クリニック〕

地域の小規模な病院。具合が悪くなったら、まずここに行きましょう。

〔総合病院〕

複数の診療科がある大きな病院。

### 受診の流れ

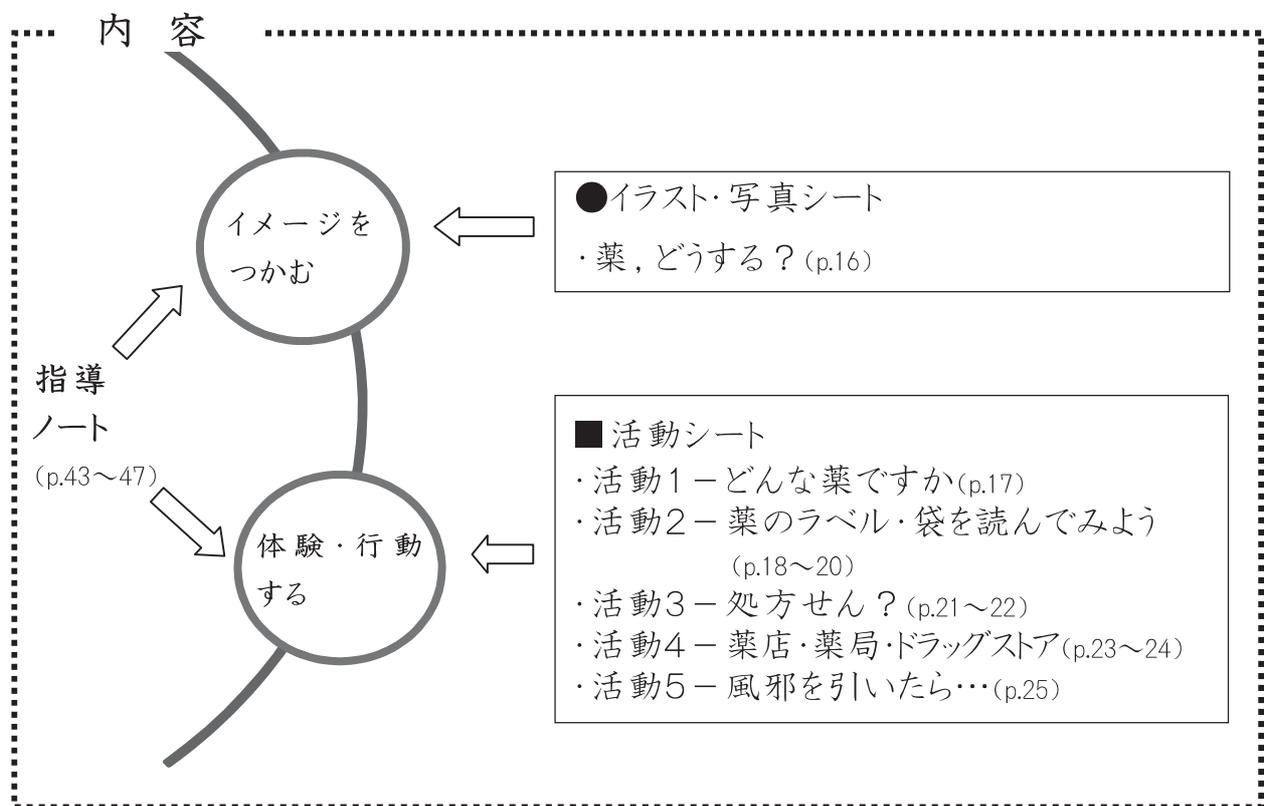
医療機関によって違いますので、大体の参考にしてください。歯科など予約制の医療機関もありますが、当日の受付順での診察が多いです。

	医院・診療所・クリニック	総合病院
初診のとき	①受付で保険証（→ P.25）を出して、「初めて」だと言います。 ②問診票を書きます。分からないときは「日本語が分かりません」と言ってください。 ③待合室で名前が呼ばれるのを待ちます。 ④名前が呼ばれたら、診察室へ入って診察を受けます。	①総合受付で、診療申込書に必要な事項を書いて、保険証と一緒に出します。 ②受付順に名前が呼ばれます。カルテを受け取って、受診料の受付にカルテを出して、受診料の近くで待ちます。 ③問診票を書きます。 ④名前が呼ばれたら、診察室へ入って診察を受けます。
再診のとき	①診察券（月が変わったら保険証も）を受付に出します。 ②待合室で名前が呼ばれるのを待ちます。	①直接、受診する科へ行って、診察券（月が変わったら保険証も）を出します。総合受付に再診受付権があるときは、それで受付します。 ②受診料の近くで名前が呼ばれるのを待ちます。
診察のあと	①待合室に戻って待ちます。 ②名前が呼ばれたら、処方箋、診察券、保険証をもらって支払をします。 ③調剤薬局に行って処方箋を渡して薬をもらいます。薬代は診療費と別に払います。	①料金支払窓口（総合窓口と別のことがあります）で待ちます。 ②名前が呼ばれたら、処方箋、診察券、保険証をもらって支払をします。 ③調剤薬局に行って処方箋を渡して薬をもらいます。薬代は診療費と別に払います。

### 医療保険

	国民健康保険	健康保険
対象	日本に1年以上住む人	就労できる在留資格をもち会社などで働く人
手続	市区町村の役所でします	会社が手続をします
保険料	全額自己負担	源泉徴収 (50%は会社が負担します)
病気・けがのとき	本人と家族は3割の自己負担で治療が受けられます (3歳以上 → 2割 70歳以上 75歳未満 → 1割)	仕事以外の病気・けがは左と同じです 仕事中の病気・けがは労災の対象です（→ P.29）
高額医療費制度	1か月の医療費の自己負担額が高額になったときに、申請するとその一部が後日払い戻されます	
その他	保険証が交付されます	

## (02) <sup>くすり</sup>薬を <sup>りよう</sup>利用 する



### 取り上げる生活上の行為の事例

(0201020)「医療機関で処方せんをもらい, 内容を確認する」

(0202050)「症状を説明し, 薬を求める」

(0203070)「薬剤師等の「効能, 用法, 注意」の説明を理解する」

### 教室活動の目標

・薬の入手の方法を知り, 入手した薬の使用法等の情報を入手し理解できる

### 教室活動のねらい

- ・処方せんが何であるかを理解し, 処方せんを受け取り, 指示を理解する
- ・どんな症状であるかを説明したり, 薬剤師等の質問に答えたりすることができる
- ・効能や用法についての説明を理解したり, 不明な点を質問したりすることができる
- ・薬の表示などが確認できる
- ・病気の対処法について情報収集・意見交換ができる

## 指導ノート

### 取り上げる生活上の行為の事例

- (0201020)「医療機関で処方せんをもらい，内容を確認する」
- (0202050)「症状を説明し，薬を求める」
- (0203070)「薬剤師等の「効能，用法，注意」の説明を理解する」

### 教室活動の目標

- －薬の入手の方法を知り，入手した薬の使用法等の情報を入手し理解できる。

### 教室活動のねらい

- －処方せんが何であるかを理解し，処方せんを受け取り，指示を理解する。  
(活動1)
- －どんな症状であるかを説明したり，薬剤師等の質問に答えたりすることができる。  
(活動4)
- －効能や用法についての説明を理解したり，不明な点を質問したりすることができる。  
(活動2，活動3，活動4)
- －薬の表示などが確認できる。(活動2，活動3)
- －病気の対処法について情報収集・意見交換ができる。(活動4)

### 活動前に確認しておくこと

- －学習者の居住地の薬局・薬店の情報
- －薬事法上の，薬局・薬店の種類，機能等
- －都道府県・市町村の薬剤師会の情報(多言語対応情報等)

### 準備する素材

- －薬袋，処方薬の説明書，市販薬，お薬手帳等の実物
- －日本の医療・薬事の制度に関する多言語情報(学習者の理解できる言語の翻訳)

## 教室活動の展開の説明

### イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・ 薬, どうする? (p.16)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.16)を提示しながら, 学習者に普段どんな薬を使っているか, どのように入手するかを尋ね, 話してもらいます。指導者が薬の実物を持って来て示しながら, 自分の経験を語り, やり取りの中で学習者からの話を引き出してもよいでしょう。

#### < 問いかけ例 >

- 「これは何ですか。」
- 「〇〇さんは, どんな薬を使っていますか。」
- 「どんなとき, 使いますか。どうやって使いますか。」
- 「どこで薬を買いますか。」

### 体験・行動する

- 活動シート
- ・ 活動1 - どんな薬ですか (p.17)

- ・ 薬の種類と形状による名称, 使用法と関連する表現を確認・整理します。
- ① 学習者に活動シートを配布します。
- ② 持参した薬品の実物をみせながら, 薬の形状による名称を紹介・確認します。

#### < 問いかけ例 >

- 「これは何ですか。錠剤ですか。カプセルですか。」

- ③ 持参した薬品の実物をみせながら, 使用法と関連する表現を紹介・確認します。

#### < 問いかけ例 >

- 「どうやって使いますか。塗りますか。貼りますか。飲みますか。」

④ 学習者は、活動シートの空欄に適切なことばを記入します。

## 体験・行動する

### ■ 活動シート

#### ・活動2－薬のラベル・袋を読んでもみよう(p.18～20)

・ 活動シート及び薬の実物を使って、ラベル等の表示を読み、効能や用法の情報を得る方法を身に付けます。

- ① 学習者に活動シートを配布します。【A】は市販薬，【B】は病院等でもらえる薬です。
- ② 指導者は活動シートの写真を指しながら、「何の薬だと思いますか」「どんなとき使いますか」と問いかけ、学習者に情報が書いてある箇所を見つけたり推測したりするように促します。
- ③ 学習者が「お腹の薬です。」「お腹が痛いときに飲みます。」のように発言したら、「どこに書いてありますか。」と尋ね、学習者に示してもらいます。当該箇所を確認し(漢字と読み仮名を板書してもよいでしょう)、他の学習者と一緒に音読します。
- ④ 「1 回にいくつ(何錠)飲みますか。」「いつ飲みますか。」「1日に何回飲みますか。」などの問いかけもし、③と同じように表示箇所を確認し、音読します。適宜、活動シートを参照し、回答を選択してもらいながら進めます。
- ⑤ 実際の教室活動では薬の実物を学習者に渡し、③④と同じように問いかけ、必要な情報を探し、確認する作業を進めます。薬の実物は、指導者が持参したものでもいいですし、あるいは事前に学習者に自宅にある薬を持って来るように伝えておいて、持ち寄ったものを使ってもいいでしょう。学習者が薬を持ち寄る場合、日本の薬に限らず、自国からのものについて、他の言語での表示の内容を日本語に言い換えて説明してもらうようにしても応用になるでしょう。

## 体験・行動する

### ■ 活動シート

#### ・活動3－処方せん？(p.21～22)

・ 「処方せん」が何か、処方せんをどこへ持っていけばいいかを、薬局・薬店の種別とともに理解し、関連することば・表現を身に付けるようにします。

- ① 学習者に活動シートを配布します。
- ② イラストと会話を確認し、写真の①～③のうちどれが「処方せん」か問いかけ、確認します。
- ③ 「処方せん」の写真の中で、どこに薬の情報が書いてあるか等も示すとよいでしょう。また、処方せんの使用期限として「受付の日を含めて4日以内に保険薬局に提出すること」という記述があることも確認しておくといでしょう。
- ④ イラスト・写真(p.24)の④～⑥のうちどこに処方せんを持って行くか問いかけ、確認します。処方せんは「保険薬局(保険調剤薬局)」に持参し、提出する必要があること、一般の「薬店」(ドラッグストア等)では処方せんの受付がされないことも説明します。「保険」と「保健」の意味の違いも、学習者によっては説明しておくといいかも知れません。④の薬店(ドラッグストア)については、近隣の薬店/ドラッグストア(処方せんを受け付けない、調剤しない店)の写真を実際に撮影してきて、ワークシートのイラストと差し替えて使用すると、現実感が高まってよいかもしれません。

## 体験・行動する

### ■ 活動シート

#### ・活動4－薬店・薬局・ドラッグストア(p.23～24)

- ・ 薬店・薬局で、一般薬品(「処方せん」必要なし)を購入する場合と、医師が発行した処方せんを持参して保険調剤薬局で購入する場合、それぞれの会話の流れを知り、必要に応じて使えるように練習します。
- ① 活動4の会話のデモンストレーションをします。(指導者と学習者、あるいは、教室に地域からの協力者がいれば会話に参加してもらおうといでしょう。)
  - ② 学習者は2人1組のペアになり、会話例1・会話例2・会話例3を実演練習します。
  - ③ 「医療機関を利用する」の活動2(p.7)や「ことば・表現」(p.12), 「薬を利用する」の活動2(p.18)の症状の表現の絵を拡大コピーして切り離し、絵カード状にしたものを、指導者は準備しておきます。これらのカードから1枚、学習者に引いてもらいます。
  - ④ カードを引いた学習者は、カードに示された症状に合わせて、会話例1・会話例2・会話例3を適宜アレンジして、実演します。

## 体験・行動する

### ■活動シート

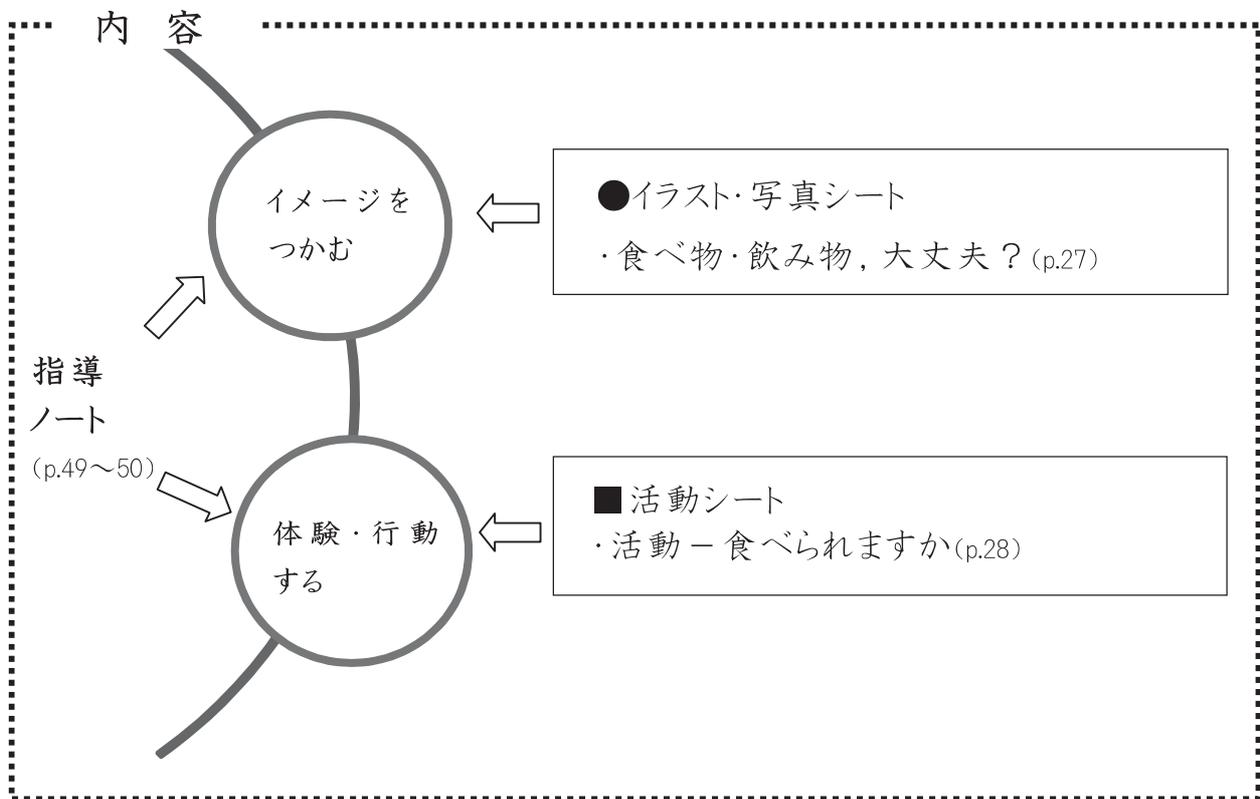
#### ・活動5－風邪を引いたら…(p.25)

- ① 活動4のシートを使って、学習者それぞれの風邪を引いたときの対処法について話し合います。
  - ② 自分の対処法について、シートのA～Gから選ぶか、Fに自由に書き込んでもらいます。
  - ③ 教室の他の学習者や地域からの支援者の人にも尋ねて、答えを書き込んでもらいます。
- ・ それぞれに異なる対処法があり、その多様性を認識すると同時に、共通点(人はよりよく生きるために助け合い、知恵を共有し、世代を超えて伝え合う)についても考えていけるといいでしょう。
  - ・ 活動5は文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』掲載の「だれの常識？」(p.46)をもとに構成したものです。ホームページからもとの記事の多言語版をダウンロードすることができるので、学習者の母語に合わせて提供するとより理解が深まるでしょう。

#### 【参考情報】

- ・ (社)神奈川県薬剤師会のホームページ(前ページ参照)には、薬の使用法や注意点の説明の多言語対応シートも掲載されています。「症状・希望の薬を伝える表現」と併せて活用するとよいでしょう。
- ・ 『病院・薬局で使う外国語会話集:薬局編(7言語)』(田辺三菱製薬)  
<http://di.mt-pharma.co.jp/foreign/pharma/download.html>
- ・ 『多言語生活情報』「F.医療-3.薬局」((財)自治体国際化協会)  
<http://www.clair.or.jp/tagengorev/ja/f/03.pdf>  
薬局・調剤薬局・薬店の違いや、処方せんの制度についての説明が13言語で掲載されています。

## (03) 健康に気を付ける



### 取り上げる生活上の行為の事例

(0302010)「食品や飲料水の安全情報を理解する」

#### 教室活動の目標

- ・食品や飲料水の安全について聞くことができる
- ・表示やラベルなどが確認できる

#### 教室活動のねらい

- ・食品や飲料水の安全について聞くことができる
- ・表示やラベルなどが確認できる

## 指導ノート

### 取り上げる生活上の行為の事例

(0302010)「食品や飲料水の安全情報を理解する」

### 教室活動の目標

- －食品や飲料水の安全について聞いたり、表示やラベルなどを確認したりできる

### 教室活動のねらい

- －食品や飲料水の安全について聞いたり表示やラベルなどを確認したりできる  
(活動)

### 活動前に確認しておくこと

- －食品等の安全について、現在、当該地域の人々にとって、関心が高まっていたり、情報提供・注意が必要と思われたりする事柄について、事実を確認しておく。また、詳細の情報を知りたいときの、問い合わせ先、参照ホームページなどを調べておき、知らせることができるようにしておく。

### 準備する素材

- －食品表示ラベル等の実物

## 教室活動の展開の説明

### イメージをつかむ

#### ●イラスト・写真シート

・食べ物・飲み物，大丈夫？(p.27)

- イラスト・写真シート「食べ物・飲み物，大丈夫？」(p.27)を提示しながら，食品や飲料水等の安全について，日ごろ気になっていることなどを問いかけ，話してもらう。

### 体験・行動する

#### ■活動シート

・活動－食べられますか (p.28)

- ① 活動の会話のデモンストレーションをします(指導者と学習者で行います。教室に地域からの協力者がいる場合は，会話に参加してもらうとよいでしょう)。その際，実際に賞味期限が表示された食品のパッケージを持ってきて，小道具として使うと，より具体的なイメージを共有しやすいでしょう。
- ② 会話をきっかけに，「消費期限」と「賞味期限」の違いについて問いかけ，ことばの確認をします。
- ③ 食品の安全や衛生について，参加者の興味に応じてディスカッションに発展させます。

<例>

- ・ 食品の保存方法の知恵，食中毒を防ぐための工夫(台所の衛生管理)
- ・ 健康によい食べ物，放射線量の情報の見極め方 等。